

読者モデルが福祉作業所を訪問。

福祉作業所って なんだか楽しい!!

福祉作業所って どんなところ?

今回のレポートを手伝ってくれたのは、東京都立調布北高校の軽音楽部のメンバー。4人も福祉作業所の中に入るのははじめて。どきどきしながらの初訪問です。伺ったのは、調布駅北口から徒歩約10分、旧甲州街道沿いにある社会福祉法人新の会が運営する福祉作業所「はあと・ふる・えりあ」。「ふあんふあーれ」も運営しています。さあどんなところでしょうか。

こんにちは



「ようこそ」と出迎えてくれたのは事務局の職員さん

まずは1階で作業見学



施設長から作業所の特徴と1階でやっている作業の内容の説明を受ける

「はあと・ふる・えりあ」はパンやクッキー、ケーキ、ゲゲゲの鬼太郎妖怪焼きなどの製造販売や、一般企業などからの受注仕事、織物製品やアクセサリなどの制作販売などを行っています。この日は1階の広い体育館のような第一作業室で、コインランドリーで販売されている洗剤の箱詰め作業をしていました。



フェルトを使ったアクセサリ。吉祥寺の「マジエルカ」という店で200~300円で販売されている

利用者に インタビュー

福祉作業所ってどんなところ？
職員はどんな人？
作業って大変？
スイーツやパンっておいしいの？
外から見てみると
なかなかわかりにくい内側を、
読者モデルが体当たりレポート!

東京都立調布北高校の軽音楽部メンバー。手前から肥留間彩音さん(2年)、竹内文香さん(2年)、下窪美香子さん(1年)、中村若菜さん(1年)



Let's Go!!!

つづいて2階で作業体験

2階の工房室では、フェルトを使ったアクセサリづくりと、古い布を細かく裂いて折り込む「裂き折り」の作業をしていました。今回は特別にフェルトを使ったアクセサリなどの制作を体験させていただきました。型の中にカラフルなフェルトを入れて針で突つくとあら不思議、固くなってヒジやウサギのアクセサリに。みなさん真剣です。

施設の職員さんから作り方を教わります



福祉のことについて 聞いてみました



作業終了後に施設の職員さんから、作業所の役割や運営の難しさや魅力、障がい者の方の賃金、1日の仕事などについて取材。福祉についていろいろ聞けました

ふあんふあーれでパンを試食



おいしい~

おみやげを いただきました

ゲゲゲの鬼太郎妖怪焼きセットをおみやげにいただきました

こんな
できました!



中村さんはハート型のアクリルスポンジ、下窪さんはカエルスポンジを制作



肥留間さんはキリンのプローチ、竹内さんはカエルのスポンジを制作

針で突っただけけど
やってみたらかなり楽しい!



後ろのほうでは織り機を使って裂き織りをしていました



グラタン風ピザ150円

ホイップドーナツ120円

洋なしのデニッシュ150円

リヨネーズポト180円

最後にベーカリーカフェ「ふあんふあーれ」で焼き立てパンを試食させていただきました。このパンは溶岩窯(ようがんがま)で焼いているのが特徴で、常時約40~50種類のパンが店内に並びます。持ち帰りのほか、イトインコーナーがあります。

わずか2時間半ほどの駆け足での訪問でしたが、百聞は一見にしかず。施設の中に入り、施設の利用者さんと職員さんと話して、作業を体験したことで、福祉作業所をかなり身近に感じていただけました。「明るい雰囲気、いろいろな利用者さんと会いました」「中村さん、いろいろな利用者さんと会いましたがみんな楽しそうでした」(竹内さん)などの感想をいただきました。

読者モデル大募集!!

わくわくでは、読者に福祉作業所を体験していただく企画を次号8号でも考えています。福祉作業所についてみたいという読者の方、ぜひご応募ください。お礼におみやげを用意させていただきます。

■訪問予定: 11月中~下旬 ■取材先: 連絡会加盟の作業所を予定

●お問い合わせ・お申し込みは、

「調布市福祉作業所等連絡会」事務局へファックスにて、
①お名前、②住所、③連絡先、④パソコンをご利用の場合メールアドレス、④年齢、⑤応募の動機、などをお書きうえ、042-481-3201へお送りください。事務局から連絡させていただきます。
※応募者多数の場合は編集部で選考させていただきます。ご了承ください。